

令和 6 年 度

幼稚園教員資格認定試験

幼稚園教育の実践に関する科目

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 受験番号及び氏名を解答用紙の指定された欄に記入してください。なお、受験番号及び氏名は2枚とも必ず記入してください。
3. 解答は、全て所定の欄に記入してください。指定された欄以外に記入されたものについては、採点対象となりません。
4. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 90 分です。
5. 試験が終わるまで退室できません。
6. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。
7. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
8. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

問 1 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)及び「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実(審議まとめ)」(令和 5 年 2 月 27 日中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会)を踏まえ、幼稚園教育と小学校教育との接続について、次の①、②の視点から記述しなさい。なお、記述に当たっては下の語句を参考にしてよいが、使用は必須ではない。

- ① 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであることから、幼稚園教育ではどのようなことを大切にするとよいか。
- ② 幼稚園教育と小学校教育の接続が円滑に行われるようにするには、どのようなことが必要か。

【語句(使用する順番及び回数は問わない)】

「創造的な思考」 「主体的な生活態度」 「幼稚園教育で育みたい資質・能力」
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 「主体的・対話的で深い学び」 「架け橋期」

問 2 以下は、ある幼稚園の教育課程に基づき作成された長期・短期の指導計画の中の、5歳児学級における10月第4週の指導計画(週案)である。ここでは、幼稚園教育要領に基づくねらいと実践の振り返り(幼児の姿、教師の関わりや環境の構成)について示している。この週の幼児の発達の姿を基に、次週の指導計画(週案)に向けての評価・改善について、次ページの(1)～(4)の問いに答えなさい。

<2年保育 週案(5歳児10月第4週)のねらい>

- ① 様々な運動的な遊びに自信をもって取り組み、自分たちで遊びを進めたり、ルールを考えたりして遊ぶことを楽しむ。
- ② 友達と思いを伝え合い、イメージを共有して遊ぶ楽しさを味わう。

<ねらい①に沿った実践の振り返り>

- 幼児の姿
- ・運動会で経験したことを生かし、自分たちで帽子取りや得点板を使った遊びを楽しんでいる。
 - ・先週までは、自分から友達の輪の中に入っていきにくかったA児やB児らも、自分から友達の輪の中に入っていけるようになった。
 - ・リレーで使ったゼッケンを隣の組の友達とサッカーをするときにも使い、楽しむ姿が見られるようになってきた。
 - ・友達と遊び方やルールを分かり合うようになり、自分たちで進めていくことでさらに楽しさを感じている。
- 教師の関わりや環境の構成
- ・遊びに使う用具を予想してすぐに使える場所に出しておいたが、教師が予想しなかった大きな得点板も友達と一緒に運んで使っていた。遊びへの思いが強いと、身近にないものも必要感をもって使おうとする。
 - ・友達と分かり合って遊ぶ姿を教師が共感し、そばで見守っていることが安心感や意欲、楽しさにつながっているようだ。
 - ・サッカーを存分に楽しめるような環境を整えると、運動的な遊びに広がりが出て挑戦しようとする機会や場が増えていくようだ。

<ねらい②に沿った実践の振り返り>

○幼児の姿

- ・先週までは教師が巧技台を準備していたが、自分たちで巧技台を出して忍者ごっこを始めた。C児・D児を中心に、「こっちの方が、いろいろな修行ができる」と総合遊具の形や色から修行の場のイメージを広げて遊んだり、園庭の鉄棒や丸太など、場を広く使ったりして、ダイナミックな動きに挑戦するようになった。
- ・E児・F児は、ダンボールを使い、海賊船を作ることを楽しみ始めた。大砲やかじなど、船に必要なものを友達と相談しながら作っている。

○教師の関わりや環境の構成

- ・園外保育で船を見たり海賊船に乗ったりした体験が、こうした遊びの中で再現され、自分たちで作り出す楽しさにつながった。
- ・それぞれのイメージを大切に、必要に応じて、教師もアイデアを出したり、一緒に素材を探したりすると、さらに楽しくなるだろう。幼児の思いを探り、実現していくことができるように支えていこう。

- (1) 「幼児の姿」から分かる、幼児の発達の姿を具体的に読み取り、二つ挙げなさい。
- (2) (1)で記述した幼児の発達の姿から、今後育ってほしいと考える幼児の姿を一つ挙げなさい。
- (3) (2)で記述した今後育ってほしいと考える幼児の姿を踏まえ、次週に設定する「ねらい」を「友達と誘い合ったり、互いに思いを伝え合ったりして、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう」とした。この「ねらい」を達成するために必要な経験を考え、次週の「活動内容」を二つ挙げなさい。
- (4) (3)で記述した「ねらい」と「活動内容」を踏まえ、次週に予想される遊びや活動における教師の援助を二つ挙げなさい。